

釣れ釣れなるままに

2014年思い出の釣行記 PART. 11

芦別川のニジマス

鹿島釣狂



上部にいるのが分かるかな？

☆釣行日 平成26年7月6(日)
☆入釣場所 芦別川
☆天候 曇り
☆エサ ブドウ虫30
☆釣果 ニジマス30cm以下21

退屈だ。息子はいつもの通りパソコンと睨めっこ。女房はママさんコーラスの全道大会で北見に行っている。途中、観光を兼ねて清水町「十勝千年の森」、丸瀬布町「山の水族館」に立ち寄ると言う。「山の水族館」と聞いて、もういてもたっても居られなくなった。それで、イトウは無理でもニジマスならと芦別川に向かった。息子を誘うが他に用事があるらしい。そして、「釣りから帰ってきたら焼き肉の用意をして待っている。炭火で食べるニジマスも美味しいだろう。」と意味有り気にのたまう。

そうと決まれば、ピンと尾っぽを伸ばした生きのよいニジマスを持ち帰るために氷を入れたクーラーを車に積み込んだ。そして、夕方のニジマスの塩焼きとキンキンに冷えたビールを楽しもうと昼飯抜きで出発した。途中、フィッシュランドでブドウ虫を購入。段ボールの中の繭から取り出したもので、ハリ付けの度にいちいち段ボールを窺る事も無く便利な代物だ。名前が「釣女王」でいかにも気品のある大物が食いつきそうだ。ついでに残り少なくなっていたチヌ針8号、中通し錘40号を購入しようとするが、その店には置いていなかった。

11時30分にいつも利用している芦別川沿いの駐車スペースに着いたが、その広場が鉄柵で封鎖され、その脇に「ゴミの不法投棄を禁ずる」との看板が設置されていた。その先には畑もあり農家の人は不便だろうと思うがやむを得ない措置なのだろう。仕方がないので道路と鉄柵の間に車を置いて旧国道だったアスファルト敷きの道を進んでいった。道路脇の藪が張り出し、アスファルトの隙間からも雑草が背丈を伸ばしていた。釣り人が踏み分けた形跡もない。河原には鹿の新しい足跡は確認できるが、釣り人の足跡が古いものになっている。芦別川は、その川筋が函のような絶壁になっていて、下り口が少ないのに加えて、雨がしばらく降っていないので釣り人が敬遠しているのではなかろうか。



雨がしばらく降っていないので川の水が少ない

川原に下りてから、5.4mの振出竿に道糸1.5号、ハリス1号、ニジマスバリ8号を結んだ。赤い橋の下のある瀬から続く淵で慎重に様子を聞くがアタリは出ない。瀬尻で

出るはずのアタリもない。荒瀬の中からようやく20cmほどのニジマスが出た。そのすぐ後に30cm。こいつはすこぶる元気がよくて、久しぶりに道糸をヒューン、ヒューンと鳴らし、華麗なジャンプも見せてくれた。

この辺りでは一番の大場所となる下流に向かった。過去に50cm台のものも上げたところだ。小場所でニジマスがポツンポツンと出て、エサが後10匹ほどになった。それで、小場所には目を瞑って最後の大場所に残しておくことにした。しかし、そこでは、大物が竿を揺らすことはなく、小ニジが2匹出たのみだった。

喉の渇きもあり腹もすいた。夕食の時間が迫ってきたこともあり、16時半には竿をしまい20匹ほどのニジマスをクーラーに詰め込んで岩見沢に向かった。しかし、炭を熾して焼き肉の準備をして待っているはずの息子がいない。札幌での用事に時間がかかってしまい間に合わなかったということだ。仕方がないのでニジマスはバターでソテーして食べた。美味くないことはないのだが、炭火の上で油が吹き出しジュッと煙があがるのを思うと……



全て持ち帰った。炭火で焼かれるはずだったが……

【つれづれ】

次の日は大きいもの5匹選り分けてあいの里に住む母のもとへと持っていった。ついでに先日摘んでおいたサクランボも。その日の夕食は女房が煮魚にしてくださった。ニジマスはやっぱり炭火で焼かなくては……。